

# なぜなに やまもり

## 山や森についてもっと知ろう!

### 木を使い、山を若返らせる?

私たちの暮らしに使う燃料が、石油や石炭にかわる前は、人が里山に入って薪や炭になる木を伐採し、利用していました。

生活様式が大きく変化したことで、薪や炭に使われなくなった木は大きく太くなり年老いていきます。そうすると、病気がまん延するなどして、山が荒れてしまいます。



定期的に木々を伐採することで、必要以上に大きくなり病気に弱い木が無くなります。

また、山を若返らせて病気に強くすることも重要です。

**山が荒れ、病気になる前に、利用したらいいと思いませんか。**

※山形県では「やまがた緑環境税」を活用して手入れの遅れた森林を整備しています。



### プロフィール

稲田 瑛乃 さん (いなだ あきの さん) <写真中央>  
兵庫県出身。山形大学農学部を卒業し、鶴岡市在住で、こけし職人やフリーライターなど多方面で活動している。  
野木 桃子 さん (のぎ ももこ さん) <写真右>  
福島県出身。管理栄養士の資格を活かしながら、大江町の地域おこし協力隊として活動している。  
井澤 絵梨 さん (いざわ えり さん) <写真左>  
山形市出身。普段は歯科衛生士として働いている。

# もりしあん

— 森がある幸せを伝えたい —

大江町で活動する「林業女子会」@山形にお邪魔して、創立メンバーにお話を聞きました。  
(稲田瑛乃さん・稲田野木桃子さん・野木井澤絵梨さん・井澤)

## 林業十女子会…?

— 林業女子会とは…? —

稲田：林業女子会は京都発祥で、地域の女性が林業に関わることをやっていくというコンセプトで、林業女子会@地域名という名前です。山形県は林業女子会は2015年7月に発足しました。年齢、職業問わず約30人の会員がいます。

— なぜ林業女子会に? —

野木：自然というものに興味があつて、地域おこし協力隊として大江町にやってきました。身近には山の仕事に携わる人がいて、山にあるものを利用して生活をしているところ、魅力を感じたのがきっかけでした。ナタの鞘にはホオノキ、こけし作りにはイタヤカエデなど、木材も適材適所だというのはとても興味深いです。

— 活動の様子は? —

稲田：活動フィールドの「もつだの森」を散策しながら森林について学んだり、枯れ木や倒木の撤去をしたりなどの整備をしています。ハードルを高くしないで、まずは森林に親しむことが目標です。

野木：林業機械で伐採作業をしている現場を見に行ったこともあり、入会したときは、スキの種の小ささにびっくりしたんです。

井澤：活動の合間に「かわいい!」という声があがることも女子会らしいですね(笑)写真も撮りまくります。あとは、おやつが充実しているところも女子会らしいです。里山でヨモギをつんで、ヨモギモチを作ったこともあります。

— 活動を通して思うことは? —

井澤：林業女子会に入っていると、よくチェーンソーを使うの!と聞かれるんですが、実際の機械操作



みんなでヨモギモチ作り!

— いろいろな山との接し方があるんですね

野木：人工林のように人の手が加わって維持される山もあれば、昔からの自然な営みの中で、薪や山菜のように山からのおすそ分けをいただく人と関わりのある山、反対に、人里から離れた自然のサイクルで保たれる山、いろいろな山のかたちがあります。人里に近い山は1つ目と2つ目で、そんな関わりの中で里山の人たちは生活してきたんだと思います。

井澤：確かに、会に入ってから色々



「もつだの森」の前ではちり

な角度から山の話聞くことができて、山の見え方が広がりました! その山がこれまでどういう歴史をたどってきたか、これからどうなっていくの、面白いのか、人間中心じゃなく、自然に寄り添った生き方を考えていくことが、今の私たちにできることだなと感じるようになりました。

稲田：いろんなことをバランスを持って見れるのが女性の特徴。そういった視点で森林をみることも必要です。自然でステキで終わるのではなく、山のことをきちんと知って付き合っていくための、最初の入口のような、そういったものに林業女子会がなればいいなと思います。これからは、メンバーの得意分野を活かしながら、いろいろな活動を展開していきたいです。